

議員と力なる会（議会報告・意見交換会）報告書

開催日時	令和7年11月17日（月） 14時00分～15時00分
開催場所	沖館市民センター2階 中央会議室A・B
会場責任者	関 貴光
記録者	万徳なお子、山田千里
出席議員	関 貴光、山本 武朝、小熊 ひと美、山田 千里、万徳 なお子、木村 淳司、竹山 美虎、小豆畑 緑
参加者数	7人
報告内容	通常のカダる会での議会報告は行わず、対象を地域包括支援センター職員及び地域の民生委員とし、日ごろの活動報告とともに課題などの情報提供をいただき、その後、意見交換会・自由意見交換を行った。
意見交換内容 (意見の要旨)	<p>テーマ：高齢者支援について</p> <p>「困難事例から考える地域のこれから 地域課題とともに考える」 青森市地域包括支援センターおきだて センター長より報告</p> <p>内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 地域包括支援センターとは→高齢者の総合相談窓口 <ul style="list-style-type: none"> ① 包括支援センターの4つの役割 <ul style="list-style-type: none"> ・総合相談、権利擁護、介護予防、包括的・継続的ケアマネジメント ② さまざまな関係機関との連携・協力 ③ 地域ケア会議の開催 検討個別課題： <ul style="list-style-type: none"> ・必要な支援や介入を拒む利用者 2. 包括おきだての相談事例の紹介 <ul style="list-style-type: none"> ① 必要な支援や介入を拒む利用者、家族に対する支援 ② 精神疾患又は精神不安定な方への説明、対応の困難さ ③ 担当マネージャーの負担が大きい ④ 身よりや支援者がいない、有事の際の対応 ⑤ 外出や活動の機会が減少している方への支援 ⑥ 複合的な問題を抱える高齢者の増加等 3. 意見交換会 <p>※議員、包括センター所長、4人の民生委員とで車座になり意見交換</p> <p>○複合的な問題を抱える事例は、専門分野が縦割りで分かれる問題であることもあり、うまく制度を使い巻き込まないと解決できないが、今のところ連携は取れている。 誰かしらが主軸となり動かなければならぬとなると、包括が中心となり担うことになるのが現実。複合的な要因を持つ問題は横の連携を取りながら、解決していくことが重要。</p>

	<p>○葬祭扶助などの経験はあるが、高齢者支援に関する複合的な問題に関してはあまり経験がない。しかし支援がされていない家庭が多いのではないかと感じる。</p> <p>引きこもり問題には介入しづらい。※8050問題→9060問題に移行しつつある。</p> <p>○アパートに入っている保護家庭は情報が取れにくい。</p> <p>何かあれば包括に調べてもらったり、問題を報告する程度で、民生委員の介入には限度がある。</p> <p>→事情进入到いくのが難しい。</p> <p>○空き家問題は深刻である。</p> <p>当事者に同行し行政相談や遠距離の親族等との連絡をとるなど、相続問題にも関わることもある。</p> <p>○民生委員の立場として、関わっていくことの難しさがある。</p> <p>○独居高齢者の認知症問題へのアプローチの入り口に困難さがある。</p> <p>民生委員の見守りはしていても、なかなか難しい。地域の住民の見守りの目も必要である。</p> <p>○民生委員のなり手不足と高齢化は深刻。</p> <p>○さまざまな問題を包括で受けきれているのか。</p> <p>ケアマネジャー等シャドーワークも現実的には多く葛藤する場面が多いのも事実。現場は大変なことが多いが、包括はすべてを解決するところではなく、さまざまな機関につなげる、支援の入口である。</p>
記録者所見	大変深刻な事例がリアルに語られ、議員と参加者で共有されたことは大変有意義だった。少人数だったので、発言しやすかった。同時に多くの市民と語り合いたいテーマでもあると感じた。

青森市議会議長 様

令和7年12月1日

上記のとおり報告いたします。

会場責任者 民生環境常任委員長 関 貴光

